

平成18年度横浜市文化財施設指定管理者
外部評価委員会評価報告書

横浜市教育委員会

平成 18 年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価報告書

《 目 次 》

1	外部評価の導入	1
2	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会の設置と目的	2
3	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会開催経緯	3
4	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価の作成	4
5	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価結果一覧・評価意見一覧	5
	(1) 横浜市歴史博物館	6
	(2) 横浜開港資料館	16
	(3) 横浜都市発展記念館	25
	(4) 横浜ユーラシア文化館	33
	(5) 横浜市三殿台考古館	40
6	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会「総評」	44
【 参考 】	横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱	50

1 外部評価の導入

横浜市文化財施設 5 館の管理・運営については、市民協働・住民サービスの向上ならびに経費の節減等を目指すため、地方自治法の一部改正に伴う指定管理者制度を導入し、同法第 224 条の 2 第 3 項の規定に基づき、指定管理者による管理運営に係る協定書を平成 17 年 12 月 1 日に締結し、平成 18 年 4 月 1 日より制度に基づく業務運営が実施されている。

本制度に基づく指定管理者による施設の管理・運営については、「指定管理者業務の基準」に基本方針・業務基準の指針が規定され、指定管理者提案書「事業計画書」には、指定管理期間での事業遂行提案が提示されている。

文化財施設指定管理者は、本基準・計画書に基づく事業計画を進め、その遂行にあたっては、「事前・事後評価（P D C A）」を的確に取り入れ、その結果を次の事業計画に向けての改善に活かして行くことの自己評価制度対応が、総ての事業展開に対する取り組みとして行われている。

事業の実施計画・報告については、「協定書第 21 条(1)～(3)」の規定により、各報告書の作成・提出が行われ、市は指定管理者による業務遂行状況、実績確認を目的としたモニタリングを定例的に実施している。

市は、このように指定管理者による具体的な「事前・事後評価（P D C A）」規定によって実施されている各業務の遂行状況・成果等について、有識者ならびに市民等によって構成される外部評価委員会を設置し、各年度での各施設管理運営に対する適正な実績評価を実施する。

《 指定管理者外部評価対象施設：横浜市文化財施設指定管理 5 館 》

- (1) 横浜市歴史博物館 （横浜市都筑区中川中央 1-18-1、 912-7777）
- (2) 横浜開港資料館 （横浜市中区日本大通 3、 201-2100）
- (3) 横浜都市発展記念館 （横浜市中区日本大通 12、 663-2424）
- (4) 横浜ユーラシア文化館（横浜市中区日本大通 12、 663-2424）
- (5) 横浜市三殿台考古館 （横浜市磯子区岡村 4-11-22、 761-4571）

《 横浜市文化財施設 5 館指定管理主管事務局 》

- ・ 横浜市教育委員会生涯学習部文化財課 （横浜市中区港町 1 - 1）

《 横浜市文化財施設 5 館指定管理者 》

- ・ 指定管理期間 平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日
- ・ 指定管理者 横浜市都筑区中川中央 1 丁目 18-1
財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
理事長 高村直助

2 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会の設置と目的

第三者評価機関である外部評価委員会の設置については、平成 17 年 3 月 3 日、総行第 66 号「指定管理者制度導入手続きにおけるチェックリスト(通知)」にて、指定管理者の管理運営状況について定期的な評価の必要が指摘されている。

この主旨に基づき、横浜市文化財施設 5 館についての管理運営状況等の評価については、「指定管理者業務の基準」において外部評価委員会の設置が規定され、各施設の管理運営ならびに改善を目的とした、利用者の視点に立った第三者による実績評価を行う外部評価委員会を、「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」により設置した。

また、本外部評価委員会による評価の目的は、「指定管理者業務の基準」での政策的課題を基本とし、指定管理者により提出された「事業計画書」での管理運営業務での遂行が、十分になされているかの確認・実績評価を行うことで、その評価成果が各文化財施設のさらなる質の向上と活性化を図り、市民からの一層の信頼を得られる施設となることを目的として取り組み、その改善指摘事項は、指定管理者に受け入れられ・運用され、さらに自主的な管理運営が行われるよう評価報告の作成を行う。

《 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会委員 》

「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」(平成 19 年 1 月 19 日制定)規定に基づき委嘱。

外部評価委員会委員の任期は、平成 19 年 2 月 7 日より文化財施設すべての指定管理期間が終了し、当該期間の最終年度の評価を終了した日までとする。

	氏名	専門分野	所属	備考
1	池田 修	施設運営・利用	BankART1929代表	
2	上山 和雄	歴史学・近代史	國學院大學教授	委員長代理
3	西田 由紀子	市民・施設利用	よこはま市民メ セナ協会会長	
4	古川 伸 壱	学校教育・施設利 用	小学校校長会会長	平成 19 年 9 月 20 日付委嘱
5	水嶋 英 治	博物館学・施設運 営管理	常磐大学教授	委員 長
6	小島 勝	学校教育・施設利 用	小学校校長会会長	平成 19 年 3 月 31 日付辞職

3 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会開催経緯

外部評価委員会は、「横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱」の規定に基づき、第1回より第5回までの委員会を開催し評価報告書の作成を行った。各外部評価委員会での議事・検討内容等については下記のとおりである。

委員会	開催日	議事・検討内容
第1回	平成19年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価委員会業務と委員の委嘱について 各文化財施設指定管理者と管理運営協定について 各文化財施設「指定管理者業務の基準」、「指定管理者事業計画書(提案書)」について 各文化財施設「指定管理月次・四半期業務報告書」と定例モニタリングの取り組みについて 外部評価委員会での評価の取り組みについて
第2回	平成19年9月20日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市文化財施設指定管理者外部評価基準について 指定管理者業務の基準・指定管理者事業計画書概要対象一覧による管理運営業務の確認 各文化財施設「業務運営」・「組織管理」別、実施・評価チェック一覧表による業務進捗確認 各文化財施設「平成18年度指定管理者管理運営業務報告書」と「指定管理者点検評価シート(自己評価)」の内容確認・検討 外部評価委員会委員作成となる「指定管理運営業務評価シート」(案)について
第3回	平成19年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度横浜市歴史博物館指定管理者業務報告書に基づく、施設現地視察とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。 平成18年度横浜市三殿台考古館指定管理者業務報告書に基づく、施設映像確認とヒヤリングの実施。ならびに評価検討。
第4回	平成19年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜開港資料館」、「横浜都市発展記念館」、「横浜ユーラシア文化館」の3施設について、第3回委員会と同様に現地視察・ヒヤリング・評価検討を実施
第5回	平成19年12月14日	<ul style="list-style-type: none"> 各文化財施設「評価結果一覧」、「評価意見一覧」作成 外部評価総評の作成について 外部評価報告書の作成日程等について

4 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会評価の作成

各文化財施設指定管理者管理運営事業に対する、外部評価委員会での業務評価については、各文化財施設指定管理者によって管理運営業務実績について作成・提出された、「月次報告書」、「四半期報告書（年度報告書）」、「指定管理者点検評価シート（指定管理者自己評価）」等を、主要な評価検討基本資料とし、各文化財施設の現地視察ならびに指定管理者とのヒヤリングを行い、その結果をもって評価作成の取り組みを行った。

(1) 評価の方法

外部評価各委員による評価作成は、各文化財施設での事業区分別に作成した「指定管理運営業務評価シート」により、事業区分別評価、事業区分総合評価の作成を行った。

評価は、下記の要領にて4段階評価にて行った。

ア【事業区分別評価の基準・段階】

- ・ A ~ 十分に業務成果が認められる。
- ・ B ~ 概ね業務成果が認められる。
- ・ C ~ 一部業務成果が認められる。
- ・ D ~ 業務成果が認められない。

イ【事業総合評価の算定・段階】

事業区分別について評価されたA～D段階については、「A = 4点」、「B = 3点」、「C = 2点」、「D = 1点」と点数に置き換え、その積和に対して事業区分別数割合にて算定を行った段階を、事業総合評価段階とした。

（算定結果数値での小数点以下は四捨五入して算定を行う。）

ウ【事業区分別評価意見・事業総合評価意見】

事業成果に対する評価意見としての視点については、

「指定管理者業務の基準」、「指定管理者事業計画書」での事項内容を満たしているか。

事業の特色、独自性、成果が得られたか。

事業の進捗において、PDCAサイクルの取り組みがなされているか。
を視点として、今後の事業への取り組みに対し、質の向上と活性化等を図るための指針とした内容での記載とする。

以上、上記(1)ア～ウ記載内容での評価方法に基づき、横浜市文化財施設5館について平成18年度指定管理者外部評価委員会による実績評価を行った。

評価結果は、下記の5には「評価結果一覧」、「評価意見一覧」として集約し、6には、「評価総評」を記載した。

5 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会

評価結果一覧 ・ 評価意見一覧

- (1) 横浜市歴史博物館
- (2) 横浜開港資料館
- (3) 横浜都市発展記念館
- (4) 横浜ユーラシア文化館
- (5) 横浜市三殿台考古館

横浜市歴史博物館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
1・2事業総合評価	B	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1) 市民ニーズの把握 (2) 学校教育との連携 (3) 市民活動との協働	B	A	A	A	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1) 収益向上事業	B	A	B	A	A	
4・5事業総合評価	B	A	A	A	A	A
4. 常設展示運営事業について (1) 通史展示室事業 (2) スタディサロン事業	B	A	A	A	A	/
5. 企画展・特別展示運営事業について (1) 「弥生の人びとの眠る場所 - 方形周溝墓と環濠集落」 (2) 「ちょっと昔を探してみよう」 (3) 「横浜の礎・吉田新田いまむかし」 (4) 「横浜指定・登録文化財展」・「横浜の遺跡展」 (5) 「紺紙金字法華経の世界 - 平安時代の装飾経 -」 (6) 「横浜の神代神楽 - 神楽師たちの近世・近代 -」 (7) 五ヶ年展示計画 (8) 共催展示計画	B	A	A	A	A	
6・7事業総合評価	A	A	A	A	A	A
6. 調査研究事業について (1) 5ヶ年調査研究計画 (2) H18年度調査研究事業 基礎的調査研究 横浜の歴史をテーマとした調査研究	A	A	A	A	A	/
7. 資料収集事業について (1) 5ヶ年資料収集計画 (2) H18年度資料収集事業	A	B	B	A	A	
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
10. 出版・刊行事業について (1) 「横浜開港150周年」記念図説出版事業 (2) 調査研究報告刊行事業 (3) 展示図録刊行事業 (4) 資料目録刊行事業 (5) 紀要刊行事業 (6) その他刊行事業 (7) 刊行物の配布計画事業	A	A	A	A	A	/

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
11. 普及啓発事業について (1)生涯学習協働事業 (2)学校連携事業 (3)野外施設活用事業 (4)「ふるさと横浜探検」事業 (5)体験学習事業 (6)歴史講座事業 (7)古文書解読教室開催事業 (8)古代史購読講座事業 (9)土器づくり教室事業 (10)開館記念特別講演会 (11)日常体験学習事業 (12)「体験学習キット」事業 (13)「文化財情報利用システム」作成・公開事業	A	A	A	A	A	/
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	
12. 広報宣伝活動事業について (1)民間企業等と連携事業 (2)招待券・割引券効果活用事業	A	A	A	A	A	/
13. 利用者サービス事業について (1)ミュージアムショップ経営事業 (2)飲食サービス事業	A	A	B	A	B	
14・15事業総合評価	A	A	A	A	A	A
14. 来館促進事業について (1)来館者促進事業 (2)野外施設活用促進事業	A	A	A	A	A	/
15. その他促進事業について (1)実習・研修の受け入れ事業	A	A	A	A	A	
16事業総合評価	A	A	B	A	A	A
16. 休館・閉館について (1)開館事業 (2)講堂・研修室等貸し出し事業	A	A	B	A	A	/
18・19・20・21事業総合評価	A	A	A	A	A	
18. 自己評価・情報公開事業について (1)自己評価公開事業 (2)情報公開推進事業 (3)実績評価事業	A	A	A	A	A	/
19. 管理業務事業について (1)効果的な管理業務事業 (2)ゴミ・環境対策事業	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
事業区分・事業名称	1	2	3	4	5	
20. 施設保守管理事業について (1) 施設設備保守管理業務 (2) 施設環境維持管理業務 (3) 常設展示室保守点検・定期部品交換業務 (4) 大塚・歳勝土遺跡公園・工房保守管理業務 (5) 受付案内業務 (1) 施設設備修繕業務 (2) 大塚・歳勝土遺跡公園内設備修繕業務	A	A	A	A	A	/
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制に確立業務 (5) 施設運営職員の配置体制	A	B	A	A	A	

横浜市歴史博物館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 立地の上で厳しい状況にあることは理解できますが、この大きさの規模の建物のもっている特性や、周辺環境を駆使してもっと様々な取り組みができると思います。</p> <p>2 (2)の連携事業が良好です。「学校の博物館利用研究会」も今後の拡大が期待されます。</p> <p>3 アンケート調査等による市民ニーズの把握、またテキスト作成や出前授業等具体的事業内容からエドゥケーターによる教育現場との連携が見て取れます。(3)の市民協働についても、遺跡公園ガイドボランティアの育成及び活動等に満足度等の成果が出ており、総合的観点からも協働がいきいき実践されていることを評価します。今後もサスティナブルに協働が実施されることが重要です。</p> <p>5 エドゥケーターを中心とした「学校の博物館利用研究会」を開催し、これまで実施してこなかったような「テキスト」や、博物館利用の手引きしたことは評価できると思います。それらの活動が評価できても広報宣伝がB評価であれば、改善の余地は残されているでしょう。</p>	<p>3 PDCAの観点から各事業とも積極的な取り組みの姿勢、努力がみとれます。特に児童に視点をあてた解説書などの独自性やある具体的な取り組みとその成果は評価できます。さらに組織全体での取り組みを期待します。</p> <p>5 一番大事な市民を、ターゲットに開かれた博物館を目指している様子が分かります。特に教師や子どもたちをターゲットにした手引書などの努力は高く評価できると思います。博物館は本当に使える道具なのだと思っていただけれるよう、また教育価値を高めていこう今後も努力していただきたいと思っています。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 立地の上で厳しい状況にあることは理解できますが、この大きさの規模の建物のもっている特性や、周辺環境を駆使してもっと様々な取り組みができると思います。</p> <p>2 事業の方向性として評価されます。</p> <p>3 外部資金の導入や新規商品、書籍販売等の取り組みにつとめたことは評価できます。しかしながら、地域貢献といった観点から民間企業協賛等は、まだまだ拡大の余地があると思われます。また、この事業取り組みが組織全体での動きに結びつくよう、内外とも今後一層の努力を望みます。</p> <p>5 協賛金を得るなど努力の成果は見られますが、博物館組織全体としての動きに結びついていない点は、職員間のコミュニケーションを改良すべきなのか、館長のリーダーシップによるものなのかは分かりませんが、いずれにしても組織力を高めたいと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1~5は各評価委員)	事業総合評価意見(1~5は各評価委員)
4. 常設展示運営事業について	<p>1 開館時に構築されたものが、そのまま継続されている印象で、現代のセンスに対応しているとは言えません。サロンもかなり広い空間を有しているのだから、もっともっと展示やイベントに活用するべきだと思います。</p> <p>3 学校歴史教材の作成の実施、スタディサロン活用につとめている。展示室ごとの学芸員による展示解説等きめこまかい対応が、リピータ-獲得の成果につながると評価できます。学芸員、別項のガイドボランティアにも共通して魅力ある楽しい解説力(声や表情など伝え方・プレゼン能力向上)を磨くことも大切です。</p> <p>5 リピータ-の獲得につながった点は評価できると思いますが、このリピータ-を継続的に維持していくことを、今後は課題として事業戦略を練ることが大事だと思います。やはり心のこもった解説・コミュニケーションが底辺になければならないと思います。</p>	<p>3 企画展「横浜の神代神楽」の例に見るように、内容が良く、来館者に満足度の高い事業も、アピール不足ではもったいないと思います。全体広報宣伝活動に工夫改善が必要です。また、他施設との広報連動など新たな発想への努力を期待します。</p> <p>5 寄託された史料群を、整理・調査研究した成果として「横浜の神代神楽」を開催し、展示だけではなく講座を通して広く紹介したのは、博物館活動の根本だと思います。その他の事業も、新聞に取り上げられるなど努力の成果が多く見られます。</p>
5. 企画展・特別展示運営事業について	<p>1 横浜の歴史とは何か?どこをとって横浜の歴史というのか?この難しい問題がきちんと土俵にあがっていないように思います。開港ゾーンと郊外開発ゾーンの関係をもっと明確に議論していく必要があるような気がします。その上で、ここ歴史博物館の取捨選択した上での、強い企画が生まれてくるのだと思います。</p> <p>2 バランスのとれた企画となっています。(2)は、入館者を呼べると捉えられます。(5)(6)は入館者が少ないが、横浜の文化にとっては必要と考えます。(1)(3)はオーソドックスな展示。目配りのきいた展示事業を期待します。</p> <p>3 企画展・特別展事業は、全般的に着実に取り組んでいることがうかがえます。評価シート各項目ともPDCAのサイクルによって取り組みが実施されており、施設の使命である横浜の歴史に関する高度の専門性や公益性が、いかに発揮されて成果を出しています。事業内容が豊富であり、川崎市民ミュージアムとの連携など、事業に広がり工夫がみられる点は評価します。</p> <p>5 マンネリ化しないように、様々な工夫をしていることが内部評価書から随所に見られ、これだけの事業を少ない職員でこなしていると思います。その努力が観覧者数の増加につながっていると思いますが、観覧者数のことばかり気にせず、限られた資料の活用を考えながら内容の充実も大切だと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
6. 調査研究事業について	<p>1 全体としてのバランスも大切ですが、何か特化した方がいいような気がします。</p> <p>2 個別的には問題のある研究もあったようですが、全体としては良好です。</p> <p>3 調査研究は、歴史博物館として根幹を成す事業の一つであり、地域の情報を広く集めるなど市民との協働をより深めていく必要があります。</p> <p>5 資料収集については、収集予算が減額されているだけに、市民からの寄贈・寄託を考えていくという改善案が記されていますが、収集理念を逸脱しないよう博物館の使命を考慮しながら進めて行くべきだと思います。</p>	<p>3 PDCAの取組が着実になされ、概ね収集研究が順調に積み上げられていると評価されます。研究や収集の向上と拡大を図るためにも、市民との協働に一層の努力が望まれます。資料公開による活用が期待されます。</p> <p>5 調査研究報告書がまとまり、成果があったかと思いますが、(ヒスイや出土鉄製品など)研究成果を展示にしたり講座にしたりすることを考えれば、これからが市民サービスにとって大事な仕事になると思います。継続的に組織力を高め研究成果を公表していただきたいと思います。</p>
7. 資料収集事業について	<p>2 目的と成果の関係が見えてきません。</p> <p>3 5カ年調査研究計画は、18年度から継続する事業としてPDCAに乗っ取り、方向性が明確に示されていることを評価します。特にデータベース化による公開には期待します。収集も寄贈寄託など、市民との協働を積極的に図る姿勢が望まれます。</p> <p>5 地域資料の収集は、まず情報収集から始まると思います。これは継続的な事業だと思いますので、市民からの情報提供が、しやすい環境・コミュニケーションづくりも大事だと思います。その意味では、市民との協働への取り組みがB評価となっているのは改善の余地がありそうです。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<p>1 もっと外部へ。一般化を目指して下さい。</p> <p>2 良好です。</p> <p>3 各種刊行物についての事業計画や着手状況は、概ね取組が順調であることがうかがえます。民間出版社との共同も予定されており発展性が見えます。一方で配布計画事業等は、マスコミなどへの周知・民間協力等、より努力が必要と思われます。</p> <p>5 各種の出版物を的確に・定期的に刊行したことは評価できると思います。しかし、今後は民間書店での販路拡大や民間出版者との提携についても、可能性を探ることは大事だと思います。市報との連携も再度検討すべきだと思います。</p>	<p>3 PCDAにのっかって着実に事業が遂行されており、質の向上や発展に取り組む姿勢は評価できます。ことに普及啓発事業は、様々なプログラムに工夫と独自性を持った取り組みが実施されており、高く評価できます。広報宣伝に新たな配布先等の開拓等が望まれます。</p> <p>5 横浜らしさを前面に出すことは、浜っ子のアイデンティティを形成していくことに役立つと思います。その意味では、これらの事業は展示と同等に重要だと思いますので、広報のあり方を見直して(市広報紙に掲載できなかった点があるようですが)、広報戦略を考えるべき時期に来ていると思います。</p>
11. 普及啓発事業について	<p>1 もっと外部へ。一般化を目指して下さい。</p> <p>2 多様な事業をよく展開しています。</p> <p>3 普及啓発には、どの事業も着実に取り組んでいると評価できます。啓発普及事業として、野外施設活用や「ふるさと横浜探検」などの取り組みは、多数の写真資料等の参加者のイキイキとした様子からも、プログラムの意義や成果の一端が見て取れます。</p> <p>5 参加者数が目標値よりも低い講座・講演会もあれば、上回る企画もあるようですが(歴史講座、古代史講読講座)、やはり新聞社との関係を良くして掲載してもらう努力が必要でしょう。広報だけの問題ではなく、ファンを将来にわたって育てていくことも大事だと思います。</p>	
12. 広報宣伝活動事業について	<p>2 努力の跡がうかがえます。特に(1)について、今後一層の努力を期待します。</p> <p>3 広報宣伝には多様な取り組みを試みており、努力は認められますが、この取り組みがどのように成果に反映しているかを把握して、次のステップに活用することが大切です。</p> <p>5 民間企業との連携、広報強化、博物館以外の文化施設との連携など、やることはまだまだあると思います。「組織的な取り組み」に課題があると自己評価していますが、その通りだと思います。</p>	<p>3 定期広報の実施や、招待券配布等による集客への取り組みなど、特色を出しながらの運営努力が認められます。さらにアピール力を高め、市民から愛着をもたれる歴史博物館の確立が期待されます。ミュージアムショップも、魅力ある資源の提供を目的に事業展開を図っており評価できますが、専門職による開発や、ショップ担当現場の声も取り入れるなど、組織全体での取り組みが望まれます。</p> <p>5 せっかく良い事業を展開しているのに、宣伝不足のために来館者が来ないというのでは宝の持ち腐れだと思います。地域圏内、周辺地域ばかりにしが目が届いていないようですが、もっと大胆にエリアを拡大して戦略づくりをしてはいかがでしょうか?</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
13. 利用者サービス事業について	<p>1 現在の商品量・人員配置の方法ですと、普通に考えても経営的には合わないのでは？見直しが必要な気がします。</p> <p>3 ミュージアムショップには、オリジナル商品など工夫も見られますが、飲食については、遠方からの来館者も視野に入れ、軽食程度の空間が検討されると良いでしょう。この項目も収益や魅力のアップにつなげたいところです。</p> <p>5 ミュージアムショップは増益だったようですが、オリジナル商品の開発は1アイテムであり、もう少しいろいろできるのではないかと思います。館内スタッフだけでは限界があるため、外部からの助言を得るようにしたらどうでしょうか。</p>	
14. 来館促進事業について	<p>1 建物入口部分に表情がないのが象徴されているように、歴史博物館の顔がないと思います。持っている豊かな遺跡の財産を活用しながら、キャラクターを構築し、もっと親しめるようなイメージづくりをしていくと良いと思います。竪穴住居で泊まることは、楽しい企画だと思いますので、もっと発展させて欲しいと思います。大変かもしれませんが開催数も増やせればと思います。</p> <p>3 広報や収支も視野に入れて、魅力や独自性のあるプログラムを展開し、来館者促進によく取り組んでいることがうかがえます。竪穴復元住居の活用や、市民協働活用など利用状況も含め評価されます。ことにエントランスコンサートや、遺跡公園イベントなど周辺市民を巻き込み、定着を図っている点は促進のポイントが高いと評価されます。</p> <p>5 エントランスコンサートのように、目立つ場所でイベントを開催すれば活動しているような印象を与えます。周辺住民に理解されつつあるようで高く評価できると思います。</p>	<p>3 PDCAの取り組みがなされており、企画の独自性(コンサートや感謝デー、復元住居利用、長期分散型実習など)や活性の試みは評価されます。</p> <p>5 館での位置付けがどのようなものか分かりませんが、実習生を戦力にしていくためには、博物館側の割くエネルギーも大変なものだと思います。今後は、インターンの受け入れを検討して、長期分散型との比較をして見ることも新しい試みだと思います。</p>
15. その他促進事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 教職員、インターシップ、体験受け入れなどが実施されており、施設利用も含めて順調な事業進捗が見取れます。特に長期分散型実習等、独自性のある試みに取り組んでいることは評価します。</p> <p>5 博物館実習の長期分散型の評価をどのように考えるか、定着するかは今後の課題であると思いますが、新しい試みをする事は良いことだと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
16. 休館・閉館について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 開館時間の延長など、鑑賞者ニーズにあわせたきめ細かい工夫は評価できます。一方で広報宣伝が不十分で、貸し出し事業の利用数が伸びない点は改善を要します。</p> <p>5 4月の臨時開館は、市民から評価されたようですが、事前に学校の社会見学で来館することが分かっていたら、臨機応変に対応することは良いことだと思います。</p>	<p>3 貸出事業は集客、収益にも繋がるため、より広報宣伝活動に力を入れることが必要でしょう。閉館については、夏季・冬季休暇などシーズンの特徴や市民生活の実態に合った設定がなされることが望ましいと考えます。</p> <p>5 資料の保存管理の点から、また展示空間やパブリックスペースの清掃の点から、また職員の雇用条件など全体的なバランスを考慮した上で、臨時開館を検討しておく必要があると思います。</p>
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>2 大変な分野ですが、よく努力しています。</p> <p>3 PDCAサイクルの循環を意識を持って取り組んでいる点を評価します。</p> <p>5 「改善の視点・課題」の所で、次年度は次の改善に取り組むとして意思決定システムを上げていますが、これは今すぐにも実施できることであると思います。</p>	<p>2 自己評価(業務報告)を、年間4回実施する必要はないでしょう。回数が増えると、おざなりになる可能性が高くなります。せいぜい年2回程度でしょう。学芸職(資料館係)と事務職(管理係)といった旧態依然たる組織ではこれからの博物館の運営は難しいのではないのでしょうか。博物館活動の基本を踏まえつつ、新たに求められている役割に対応できる組織を考えるべきでしょう。</p> <p>3 事務・専門職の連携など、組織体制の確立につとめられており評価されません。自主研修を強化するなど、積極的取り組みの姿勢が見て取れます。</p> <p>5 キャリアアップ、スキルアップ、レベルアップは自己研鑽も必要ですが、職員のバランスを重視し、研修の機会を与えることが大事であると思います。その意味では、研修の機会を増やすことも検討しなければなりません。</p>
19. 管理業務事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 よこはまG30プランの着実な取り組みは評価できます。</p> <p>5 『ゴミ持ち帰り』運動のような来館者教育も、長い目で見れば必要であると思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
20. 施設保守管理事業について	<p>1 外回りは、公園とリンクしていて、いい感じの景観を形成していると思いました。館からのアプローチが寂しいので何か屋外の展示物があってもいいと思います。またキャンプだけではなく、遺跡・公園も含めた何か歴史に関する野外美術展のような企画をされるともっとはっきりと、館とのつながりができると思います。</p> <p>3 保全や修繕等、将来展望に備え、評価は単年度ごとであっても、事業計画には長期展望が必要です。</p> <p>5 施設のみならず資料保全も重要であると思います。害虫・ネズミ駆除は全館的にIPMを取り組む必要があるでしょう。</p>	
21. 組織構成と運営について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>2 判断の材料が少ないと感じます。学芸と庶務という分け方では、求められている様々な事業に対応できないのではないのでしょうか。</p> <p>5 自己研鑽に励む姿が目に見えます。</p>	

横浜開港資料館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
1・2・3事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1) 市民サービスについて (4) 学校教育連携の対応 (5) 市民活動との協働	A	A	A	A	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1) 経費削減の対応 (2) 収益向上施策 (3) 外部資金導入施策	B	B	B	B	B	
3. 魅力資源活用事業について (1) 収蔵資料の活用	A	A	A	A	A	
4・5事業総合評価	A	A	A	A	A	A
4. 常設展示運営事業について (1) 最新情報の提供	A	A	A	A	A	/
5. 企画展・特別展示運営事業について (1) 「外国人カメラマンが撮った幕末ニッポン」 (2) 「知られざる横浜の歴史と文芸」 (3) 横浜近代化のいない手たち「地域リーダーの幕末・維新」 (4) ミナトを支えた水運「川の町・横浜」 (5) 企画展関連展示 (6) 開港150周年企画展示事業	A	A	A	A	A	
6・7・8事業総合評価	A	A	A	A	A	
6. 調査研究事業について (1) 開港150周年記念事業 (2) 外部団体との連携事業 (3) 歴史学的研究	A	A	A	A	A	/
7. 資料収集事業について (1) H18年度資料収集事業	A	A	A	A	A	
8. 資料整理・保存事業について (1) 資料の整理事業 (2) 資料保存方法と事業	A	A	A	A	A	
9・10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
9. 閲覧・公開事業について (1) 収蔵資料の利用促進 (2) コンサルタント業務の推進	A	A	A	A	A	/
10. 出版・刊行事業について (1) 出版・刊行物の作成	A	A	A	A	A	
11. 普及啓発事業について (1) 市民団体共同事業	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
12・13事業総合評価	A	B	B	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について (1) 媒体開発・戦略の取組み	A	B	A	A	A	/
13. 利用者サービス事業について (2) 飲食サービス提供事業	B	C	C	B	B	
14・15事業総合評価	A	A	A	A	A	A
14. 来館促進事業について (1) 来館者促進事業の展開	B	B	B	B	B	/
15. その他促進事業について (1) 実習・研修の受け入れ事業 (3) 職員派遣事業	A	A	A	A	A	
16・17事業総合評価	A	A	A	A	A	A
16. 休館・閉館について (1) 特別開館事業 (2) 開館時間延長事業	B	B	B	B	B	/
17. 利用料金等について (3) 複製資料提供事業	A	A	A	A	A	
18・19・20・21事業総合評価	A	A	A	A	A	A
18. 自己評価・情報公開事業について (1) 自己評価公開事業 (2) 情報公開推進事業 (3) 実績評価事業	A	A	A	A	A	/
19. 管理業務事業について (1) 効果的な管理業務事業 (2) ゴミ・環境対策事業 (5) 施設設備活用事業	A	A	A	A	A	
20. 施設保守管理事業について (1) 施設設備保守管理業務 (2) 施設環境維持管理業務	A	A	A	A	A	/
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制に確立業務 (6) 施設運営職員の配置体制	A	B	A	A	A	

横浜開港資料館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<ol style="list-style-type: none"> 1 「たまくす」も含めて、動きだされたような気がします。今後も実験的なトライを繰り返す中で、資料館としての独自の市民への開放を継続していただければと思います。 2 協議会の発足、協働事業の実施は高く評価されます。 3 市民協働事業プロジェクトチームを発足させるなど、積極的な取り組みを評価します。また収益向上だけに特化することなく、資料館を支える人々を、増加させるための事業を展開するなど、本質的な運営の姿勢や考え方が明確に示されています。 4 学校現場への積極的な情報発信を今後も期待します。 5 学校教育との連携への取り組みがC評価となっていました。最初からパーフェクトを狙うのではなく、持続的な活動を目指すべきだと思います。その他の取り組み、たとえば横浜郷土史団体連絡協議会研修の実施などから、A評価とします。 	<ol style="list-style-type: none"> 2 全体として活動が良好に行われています。特に、協議会の発足・協働事業の実施は高く評価されます。 3 経費節減や市民協働、収蔵資料の活用など、資料館の重要な事業について努力が具体的に見て取れます。学校連携のC評価や広報宣伝のB評価など、自己分析もきちんとできているようですので、今後は改善、見直し等に積極的に取り組むことを期待しています。資料館のミッションとして、学校教育とのしっかりした連携は早い段階で実現することが大切だと思います。 5 経費節減や市民協働事業などは、マネジメントの基礎的な部分であり、努力している様子が理解されます。問題は、それらの努力が息切れせず、継続できる体力をつけておくことも必要に思います。特に外部資金の導入ができない場合はどうするかなど、あらゆるケースを考慮しておくことも必要に思います。
2. 経費削減・収益向上事業について	<ol style="list-style-type: none"> 1 普通に協賛金をお願いしたり、助成申請するなどの作業はできるのではないのでしょうか？ 2 限界がある中で、良く実施されていると評価します。 3 経費節減に努めていることが実施内容から見て取れます。広報宣伝や啓発事業がB評価となっており、資料館のアイデンティティをしっかりと発信して、広く社会につながっていく努力が一層求められます。外部資金導入等も発信し理解を得ることが大事でしょう。 5 経費削減の努力が見られます。来年度は一層の努力が期待されますが、外部資金の導入については、民間企業との協同事業を展開するにあたっては、企画力が必要だと思います。経費節減だけに目が奪われることなく、企画力などの総合力も必要とされると思いますので、組織力を高めるよう期待します。 	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
3 魅力資源活用事業について	<p>1 アーカイブの活用としては、収益事業に繋げるなど、全国でも先駆けの事業をしていると思います。高く評価できます。</p> <p>3 プロジェクトチームの検討、戦略、調査、報告の流れにより、HPに的確な資料提供や概要のアップが図られており評価できます。プロジェクトでの流れに合わせて、組織全体からの視点もとれるとより活性するでしょう。</p> <p>5 HP上のコンテンツ「諸家文書」を覗いてみましたが、地味な作業をよく仕上げていて高く評価します。歴史的価値・学術的価値を高める仕事も高く評価されてよいと思います。</p>	
4 常設展示運営事業について	<p>3 寄贈間もない資料も、展示紹介している様子や、タイムリーな資料展示など最新情報の提供に努力していることを高く評価します。</p> <p>5 たとえどんなに規模が小さくとも、新収資料の展示することは大事です。新聞に取り上げられる話題提供も、市民の目に触れる機会として発展していくことと思います。特に、寄贈者に対する顕彰などは、市民からの支持を得るのは絶好の機会ですので、こういう活動は高く評価できると思います。</p>	<p>3 2009年に向けて、各文化財施設の協力体制を協議しているとの報告がシートにあります。相互コミュニケーションや連携を密に、早期に事業化の準備に取り組むことが必要と思われます。開港150周年は、歴史文化に関わる当館、および各施設が重積を担うべき大きな機会だとの認識をもって、取り組んでいただくことを期待します。</p> <p>5 せっかくの企画展示事業なので、都市発展記念館との共催事業については、総合的かつ戦略的に実施運営していくことを早期段階に計画することを望みます。</p>
5 企画展・特別展示運営事業について	<p>1 全て拝見したわけではありませんが、冊子などを見る限り、充実した内容のように思えます。ただ施設規模の問題があるのはわかりますが、規模が小さいと思います。廊下、中庭、事務室、階段、領事館部分、講堂なども含めた、全館を使っての企画展を見てみたいと思います。</p> <p>2 人を呼べる企画と、地味だが着実な企画とがミックスされており、大きな成果を上げています。外部資金獲得事業内容についても高く評価されます。</p> <p>3 「外国人カメラマンが撮った幕末ニッポン」の入場者数が2万人を上回ったという実績は、良いものには沢山の人が訪れるという証であり、企画内容の素晴らしさ及び、工夫をこらした解説や紹介、さらに入館者数や居住地チェック等、アンケートの実施など事業を通して高く評価できると思います。一方で、集客にとられず、優れた企画や開港資料館の使命を担う企画も大切に実施してほしいと思います。PDCAサイクルに基づいて推進されています。</p> <p>5 企画展示事業に平行して、写真集や展示図録を刊行するなど、情報のストックが形成されることは、館の存在意義を高めるものだと高く評価できます。外部資金も導入している点では、やはり企画の内容が素晴らしかったのではないかと想像します。観客受けする企画も大事ですが、地味な、しかし学術研究する分野も開港資料館として実施して欲しいと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
6. 調査研究事業について	<p>1 開港150周年、特別予算が計上できているのかどうか心配ですが、是非ひとつの高みに上げたプログラムを実施して下さい。</p> <p>2 横浜の特色である中華街や、外国人全体に関する調査研究に力点を置きながら、地元関係・政治関係にも力を注ぎ、成果を上げていると評価されます。</p> <p>3 調査研究事業は、いずれも体系的、専門性高く取り組んで、良い成果を収めていることが見て取れます。資料館の本分ともいえる事業について、多くの成果を出している事業運営は高く評価できると思います。</p> <p>4 開港資料館の持つ資料を、開港150周年に向けて市民が横浜の歴史を再確認(認識)出来るよう提供することが必要と考えます。</p> <p>5 成果を目に見えるようにすることは大変な努力を要しますが、報告書から判断すると、政治史・経済史・文化史などの観点から、多くの成果を出していると高く評価します。</p>	<p>2 この分野が、当資料館の基礎体力を形成するものであり、資料の収集を基礎に、施設内に閉じこもることなく研究・活動を展開すべきと考えます。</p> <p>3 評価シートの具体的な取り組みや、PDCAに基づく記載、ヒヤリング等を通して、限られた人員やコストのなかで、現場が高い専門性を持って努力していることが見て取れます。</p> <p>5 調査研究、資料収集、整理、保管は内部の地味な活動であり、市民に対して直接的にどうこうする業務ではありません。そのため何をしているのか、あまり外部の人にはわかりにくい面もありますが、博物館の根幹の業務ですので、継続して実施してほしいと思います。</p>
7. 資料収集事業について	<p>3 収集を単体事業と捉えるのではなく、寄贈や収集について記録・保存・整理・公開までを体系的にどう運営して行くか、組織的に戦略をもって事業に取り組む視点が必要と思われれます。</p> <p>5 マイクロフィルム撮影による収集は理解できますが、その保存方法および今後の公開方法は、どの様になるのかが読み取れませんでした。委託費の効率的運用を考える意味では、市内の大学や研究生・大学生・インターンなどを、このプロジェクトに参画させて撮影することは考えられないのでしょうか？</p>	
8. 資料整理・保存事業について	<p>3 資料館として要の事業であり、恒常的に目配りと工夫を持って、高度の整理保存展開を継続する必要があると考えます。</p> <p>5 資料整理と保存(IPM)は博物館の要ですので、継続して実施されるよう期待します。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
9. 閲覧・公開事業について	<p>1 先駆的な取り組みが行われていると思います。もっと開架が多ければ良いと思います。</p> <p>3 初めての利用者にも解りやすい利用案内や、資料作成に努めた点は、だれもが来館でき教育にも寄与するなどよい評価ができます。コンサルタント業務にも成果をだし、利用者の要望を反映(カラーコピー)するなど、総じて努力が見られます。</p> <p>5 都市計画局と協働して地図のデジタル化を推進したことは、横浜市内における評価にもつながると思います。</p>	<p>2 出版事業は重要事業と位置づけられ、現状での業務レベルの維持が必要で す。更に市民団体協働事業の取り組みは、大きな成果と評価されます。</p> <p>3 横浜郷土史団体連絡協議会との共催、区役所との連携など広く市民に開か れ、社会につながっている博物館として、魅力的な事業を展開していることが評 価できます。</p> <p>5 郷土史団体連絡協議会の設置と運営は、市民に開かれた博物館活動として非 常に重要であると思います。これに参画する人々をさらに研鑽を積み、開港資 料館にとっても戦力となるよう仕組みを整備し、博物館力を高めていただきたい と期待しています。</p>
10. 出版・刊行事業について	<p>1 レベルが高いと思います。もっと世にでるといいと思います。</p> <p>3 市民との協働出版など、事業に奥行きと広がりを持って推進しており評価できま す。PDCAに基づいての事業実施と理解されますが、効率的な経費執行につい てもこの流れの中できちんと見ていく必要があると思います。</p> <p>5 紀要には充実した研究成果を発表したり、展示関連の出版物の売れ行きが順調 であるなど、評価できると思います。売れることにこしたことはありませんが、売 れない目録であっても、文化施設・資料館としては目録の刊行も重要な役割です ので、そこをどうアピールしていかかが問われると思います。</p>	
11. 普及啓発事業について	<p>1 今始められていることを更に、発展・展開を進めてください。</p> <p>3 市民参画が、団体数・規模ともしっかりとした戦略会議のもと、実施され高く評価 できます。同時に区役所との協力体制等も確立するなど、開かれた資料館として の取り組みが随所に見て取れます。</p> <p>5 市民参画は、開かれた資料館の象徴です。区制施行80周年を目指して、協力 体制の基盤強化に励んで新しい企画を進めていただきたいと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
12. 広報宣伝活動事業について	<p>2 指定管理者自己評価ではA評価となっていますが、事業報告書での第1・2回企画展示では、広報の不足ならびに広報との連携不十分が指摘されています。どの様に理解したら良いのでしょうか。</p> <p>3 改善の視点にあげておられるように、報道と入館者数の動向調査は戦略として必要であり、積極的に媒体開発に取り組むことを期待します。</p> <p>5 後援各社が報道してくれたのはいいことですが、波があると思います。そのために、当たり外れがないよう、メディアに取り上げられる数値目標を設定し、それにに向けた努力をしてはいかがでしょうか。</p>	<p>3 運営事業は複合的に推進される事情から、プランどおりにいかないことも多々あると思いますが、そうした状況をPDCAで確認しつつ、柔軟により選択をしながら事業展開をしていくことが求められると思います。その努力の姿勢がみてとれることを評価したいと思います。</p> <p>5 この利用者サービス事業は、一番来館者に目が行くところで、おろそかにできない部分です。広報に力をいれたくてもできない、というのではなく、どうしたならば手配できる様になるのか、組織の中で議論して解決策を見つけていただきたいと思います。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>1 自己評価がC評価とは厳しいですが、資料館の立地は、まさに横浜の超一等地です。是非、抜本的な改革を目指して下さい。欧米の美術館でカフェやレストランの重要性は問わずもしたことです。十分にレストラン中心に館全体を盛り上げることができるはずです。</p> <p>3 改修経費の調整等も含め、諸事情が重なっていますので、18年度中の開店はできませんでしたが、19年度開店への下地作りに努力した経緯が見てとれます。事情は理解しておりますが、評価はありのままにC評価としました。</p> <p>5 喫茶室の営業希望者が出ない中、営業者を決定できたことは素晴らしいことで、改修に時間を要したため年度内の営業開始に至らなくてもそれは仕方ないことだと思います。</p>	
14. 来館促進事業について	<p>1 確かに学校動員を除外すると少ない気がします。内容の充実さに伴って利用者が来るとは思いません。動員に関しましては総合的な戦略で行うしかなく、やはり内外部での議論、企画立案、実施が必要と思われます。</p> <p>3 開館日や、開館時間についての周知を解りやすく、徹底することが大事だと思います。</p> <p>4 小中学生向けの企画につきましても期待します。</p> <p>5 臨時開館やゴールデンウィークの開館・時間延長は、入館者の増加に期待できるので必要ですが、近隣の施設や博物館の状況を鑑みて、全体としてどうすべきかを議論しておく必要があると思います。</p>	<p>3 講座を通じて市民とよりリレーションを築くなど、開かれた博物館としての素地が着実に構築されています。</p> <p>5 外部に対してどのようにアウトリーチプログラムを展開して行くか、非常に大事な活動だと思いますので、今後も継続してできるよう組織力の強化を心がけていただければと思います。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
15. その他促進事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 市民向け講座の対象も、地区センターやコミュニティハウス、社会教育などへと広がりがあり、また大学からの受け入れも数校におよび、本事業は高く評価できます。今後の需要増加見込み(開港150周年)にも、具体的なシミュレーションをしておく必要があります。</p> <p>5 講師派遣22回という実績は高く評価できます。資料館の宣伝にもなりますから、今後どの程度力を入れていくか議論しておくことが必要だと思います。</p>	
16. 休館・閉館について	<p>1 カフェなどと連動して、カフェと中庭だけは遅くまで開けるとか、何か経費があまりかからない方法で、行えることはあると思います。</p> <p>3 人口動態や社会動向から、人々の動き方が変化してきています。そうした観点からも、市民ニーズを的確に把握し戦略を練ることが大切でしょう。リアルタイムで周知できるインターネットや、問い合わせにテーブルを入れておくなど、利用者の目線に沿った管理運営が望まれます。</p> <p>5 実績ベースで見直すことと同時に、広報計画を立案することが唯一の解決課題であると思います。</p>	<p>3 PDCAに基づく事業報告からは、実施後効果のたもの、でなかったもの、また改善点もよく整理されており、次年度につながる運営がなされていると評価します。</p> <p>5 だんだん市民に開かれた博物館に変化しているのが分かります。</p>
17. 利用料金等について	<p>1 さらに、合理化、スピード化、収益性を向上できる分野だと思います。</p> <p>3 有料化システムの構築は、高く評価できます。このように利用者のニーズと収入源の確保があいまっての展開は、今後、未開拓の部分にも期待がもてます。</p> <p>5 有料化で収益を上げたことは高く評価できます。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 PDCAサイクルがしっかり認識され、プランから改善までの流れができつつあると思います。</p> <p>5 完全な評価はできませんが、継続して前年度比を常に意識しておくことが大事です。</p>	<p>2 自己評価(業務報告)を、年間4回実施する必要はないでしょう。回数が増えれば、おざなりになる可能性が高くなります。せいぜい年2回程度でしょう。学芸職(資料館係)と事務職(管理係)といった旧態依然たる組織ではこれからの博物館の運営は難しいのではないのでしょうか。博物館活動の基本を踏まえつつ、新たに求められている役割に対応できる組織を考えるべきでしょう。</p> <p>3 評価シートやヒヤリング、また公開されている資料やウェブなどからも、横浜が誇る資料館として優れた良い運営がなされているとの印象を持っています。外部評価に際して利用者の目線から心がけましたが、制約ある人員や経費の中で、貴重で豊富な資料を心地よく見やすく提供されていることに、ゆきとどいた市民サービスを随所に感じ評価しています。</p>
19. 管理業務事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 基本姿勢が着実にとられおり評価できます。コンプライアンスは当然のことであり、さらに施設の長寿命化をめざして取り組んでいかれることを期待します。</p> <p>5 日常のメンテナンス如何によって、施設が長く運用できるか否かにかかってくると思います。</p>	<p>5 これだけの少ない人数で、手仕事をするのが求められるのではないかと思います。</p>
20. 施設保守管理事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 安全、突発的故障に対する迅速対応など、日頃から業務基盤の整備をしておくことが大切だと思います。</p> <p>5 日常のメンテナンス如何によって、施設が長く運用できるか否かにかかってくると思います。</p>	
21. 組織構成と運営について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>2 制約ある人員体制の中で、改善や工夫のある運営ができていること、また、事務系職員と学芸系職員とが合同で組織体としてコミュニケーションや、意志決定ができているなど、運営の質が向上していることについて評価します。</p> <p>5 組織がしっかりしていないと、博物館は生きてこないで、組織や館長の役割は大きいと思います。</p>	

横浜都市発展記念館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
1・2・3事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)サービスの向上 (1)学校・教職員との連携 (1)市民協働の推進	B	A	A	A	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)経費の節減対応措置	A	A	A	A	A	
3. 魅力資源活用事業について (1)建物施設の活用事業 (2)人的資源の活用事業	A	A	A	A	A	
4・5事業総合評価	A	A	A	A	A	A
4. 常設展示運営事業について (1)新たな取り組み事業 (2)常設展示の更新事業	A	A	A	A	A	/
5. 企画展・特別展示運営事業について (1)「昭和のはじめの地図の旅」 (2)「MM線開通3周年記念」横浜ノスタルジア	A	A	A	A	A	
6・7・8事業総合評価	A	A	A	A	A	A
6. 調査研究事業について (1)文化財施設等連携事業 (2)調査研究の公開 (3)年間調査研究事業	B	B	B	B	B	/
7. 資料収集事業について (1)資料の収集 (2)H18年度資料収集事業	A	A	A	A	A	
8. 資料整理・保存事業について (1)保管・修繕事業 (1)マップ作成事業	A	A	A	A	A	
9・10・11事業総合評価	A	A	A	A	A	A
9. 閲覧・公開事業について (1)収蔵資料の利用促進	A	A	A	A	A	/
10. 出版・刊行事業について (1)出版・刊行物の作成	A	A	B	A	A	
11. 普及啓発事業について (1)講座イベント開催事業 (2)講師派遣事業 (3)執筆事業	A	A	A	A	A	

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について (1) 戦略的広報活動	A	A	A	A	A	/
13. 利用者サービス事業について (1) ミュージアムショップ販売事業 (2) H18年度開発・販売事業 (3) 飲食サービス事業	A	A	B	A	A	
14事業総合評価	A	A	A	A	A	A
14. 来館促進事業について (1) 来館者促進事業の展開	A	A	A	A	A	/
16・17事業総合評価	A	A	A	A	A	A
16. 休館・閉館について (1) 特別開館事業	A	A	A	A	B	/
17. 利用料金等について (1) 共通割引入館の設定	A	A	A	A	A	
19・20・21事業総合評価	A	A	A	A	A	A
19. 管理業務事業について (1) 効果的な管理業務事業 (2) ゴミ・環境対策事業 (3) 危機管理実施事業	A	A	A	A	A	/
20. 施設保守管理事業について (1) 施設設備保守管理業務 (2) 施設環境維持管理業務	A	A	A	A	A	
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制 (5) 施設運営職員の配置体制	A	B	A	A	A	

横浜都市発展記念館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 開港資料館との連携がさらに必要になると思います。</p> <p>3 市民ニーズ把握の積極的取り組み(アンケート調査等)がなされている点を評価します。学校連携については施設の規模をカバーする方法として、アウトリーチなどの工夫も必要かと思われます。</p> <p>4 教職員(学校用)向けの、授業に利用できる資料等の一覧(写真付)作成が必要と考えます。</p> <p>5 アンケート調査は大事ですが、それらの結果をどのように反映させるか、上部組織や他の博物館との調整または戦略づくりが必要であると思いました。観光人材養成講座は面白い視点だと思います。</p>	<p>3 歴史的建造物は市民にとって魅力ある財であり、関係機関や所管局との連携協力により発想を豊かに有効活用し、ソフトもハードも魅力的に活用していくことを期待します。</p> <p>5 歴史的建造物としての利用制限があるなかで、その魅力を最大限活用できるよう関係機関・部局との調整は大変だと思いますが、博物館の経営・運営戦略の重要な柱となるのではないかと思います。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 横浜高速鉄道とのタイアップなどは、節減と市民への提供が同時に達成できる工夫として評価します。こうした提携による無料使用は、外にも開拓できるのではないのでしょうか。ファンドレイズは引き続き努力がいるでしょう。</p> <p>5 資料写真の撮影などは、横浜市内の専門学校や大学との連携事業の一環として事業を組み立て、継続的に実施できる体制にすることが必要です。</p>	
3 魅力資源活用事業について	<p>1 狭い空間の中で、コンパクトに充実展示されていると思います。</p> <p>「欄外の話ですが、やはりユーラシア文化館との組み合わせや、さらに言えば、新聞博物館や放送ライブラリーとの関係、すなわち、情報文化センター全体での取り組みが欠落しているものと思います。縦割り、組織が異なることはわかります。もっと全体でのハンドリングがあってしかるべきだと思います。その中でこそ、都市発展記念館の位置が確立されるのだと思います。共通チケットのことも、根本的に開発されると良いと思います。」</p> <p>3 歴史的建造物のため、各所管局との複合的な協議等が必要と思われますが、窓面ロールスクリーンなど有効活用の実現をみており評価できます。引き続き知恵と工夫を生かし活用事業を推進することを期待します。</p> <p>5 旧第一玄関の展示利用については、来年度事業で姿・形が見えてくるのだと思います。期待しております。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
4. 常設展示運営事業について	<p>3 市民募集の写真展等、市民との協働が相互により力を出し合って達成できていることを高く評価します。またコンベンションビューローとの提携や記者発表など、広報宣伝の成功体験ができています。</p> <p>5 歴史的建造物としての利用制限がある中で、その魅力を最大限活用できるように関係機関・部局との調整は大変だと思いますが、記念館の経営・運営戦略の重要な柱となるのではないかと思います。</p>	<p>2 建物・規模等について制限のある施設ではありますが、立地条件を生かした努力が見られ、その成果がうかがえます。</p> <p>3 都市発展記念館の収蔵内容は横浜市民だけではなく、広域の利用者を視野にいたれた広報宣伝等に取り組むことが大切だと思います。館のアイデンティティを明確に、常設・企画とも魅力的な経営、運営に取り組むことを期待します。</p> <p>5 企画の当たりはずれに一喜一憂せず、記念館の基本的業務もおろそかにせず、常設展示の更なる価値・意味・意義づけを検討していただければと思います。</p>
5. 企画展・特別展示運営事業について	<p>1 個人の作家をフューチャーした企画展ですが、これが成功したことでわかるように、アノニマスな館であるからこそ、固有名詞でカンフル剤を打つ必要があると思います。市民はやはり、新しい何かサムシングニューを期待していると思います。</p> <p>2 地道な調査・研究を踏まえた専門性の強い企画展示と、一般市民を対象とした企画展示をミックスした事業展開が必要でしょう。</p> <p>3 企画の内容が優れていること、二期制の後期無料入館、メディアに頻度多く登場する、小学校にリーフレットの配布するなど、取り組みに工夫と数々の努力が見て取れます。</p> <p>4 昭和30年代の企画については、今後も期待します。</p> <p>5 昭和30年代を懐かしく思う世代にうけたことを考えれば、特定層の設定とターゲットを対象にした企画の重要性がわかります。今後もヒット作を飛ばしてください。</p>	
6. 調査研究事業について	<p>1 研究が難しい領域のような気がします。だからこそ、今後どういった館にしていくかをやはり内外で議論し、何を新たに研究するのか、あるいは研究よりもプレゼンテーションにもっと力点を置くなど、方向性を探るべきです(例えば、携帯電話やメディアとの関係など)。</p> <p>3 調査研究事業は博物館の要であり、着実に取り組んでいることを評価したいと思います。とりわけ研究成果を講座で公表することにより、研究者、市民の評価批判といった双方向性のある姿勢が素晴らしいと思いました。心情的には限りなくA評価に近いB評価としました。</p> <p>5 調査研究事業が広範にわたるため、(B・D評価・「未着手」が散見されますが)優先順位を付けてもいいのではないかと思います。すべて100%完璧に実施することは体制・予算の面からも厳しいのではないかと思います。しかし、努力は認められます。</p>	<p>2 現在の専門職員(記念館係)のみにおいて、調査・研究・展示業務を展開するのは不可能であり、外部機関・個人等との業務連携が必要と考えます。また、中心商業地の研究は市史資料室、生活用具研究は歴史博物館との密接な連携による業務の実施が必要です。</p> <p>3 調査研究や資料収集は、分野の特性からもじっくりと取り組まなければならない面があり、PDCAサイクルにとられて単に計画をこなすということにならないよう、PDCAを効果的に用いての質の高い事業展開を望んでいます。収蔵施設の不足については、早急に重点施策の必要に迫られているのではないかと思います。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
7. 資料収集事業について	<p>3 寄贈の増加は、市民との協働という観点から収集事業の幅が広がると思いますが、またPDCAサイクルに基づく推進が実施されていると評価します。</p> <p>5 寄贈による資料が増加しているようですが、今後は質的評価も必要になってくると思います。資料収集方針を明示し、寄贈を受けるシステムづくりを期待します。</p>	<p>5 未着手の取り組みが多々ありますが、調査研究の工程管理は重要です。それ以上に、調査研究の内容のほうが重要であると思います。粗雑な研究内容よりも丁寧な研究成果を希望します。また収蔵施設の不足についても、横浜市と協議することが必要であると思います。このまま継続していけば必ず限界地点まで到達してしまいます。墓石行政にならないように希望します。</p>
8. 資料整理・保存事業について	<p>3 現段階で地下収蔵スペースが不足であるうえ、上記のように寄贈も増加しており、早期に当該事業について横浜市と協議するなど、重点施策を検討しなければならないでしょう。</p> <p>5 ユーラシア文化館との共同事業は重要です。しかし、単館ごとの指定管理のあり方も次期・指定管理者の選定のときには見直しが必要であると思いました。</p>	
(マップ作成事業)	<p>3 地図古写真のデジタル化は、誰でも何時でも見たり学んだりできるという意味から、市民サービスとしてもまた記念館の財としてもよい事業だと評価します。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
9. 閲覧・公開事業について	<p>3 調査研究や資料収集は、分野の特性からもじっくりと取り組まなければならない面があり、PDCAサイクルにとらわれて単に計画をこなすということにならないよう、PDCAを効果的に用いての質の高い事業展開を望んでいます。収蔵施設の不足については早急に重点施策の必要に迫られているのではないかと思います。</p> <p>5 デジタル化の進捗状況は部分的に遅れているところがありますが、継続することのほうが大事だと思います。その体制づくりが課題だと思います。</p>	<p>3 収蔵資料の利用促進は、業務内容とボリュームからもう少し広く外部に寄与できるのではないかと思います。運営業務が多岐にわたり、人員も制約ある中ですが、開かれた記念館としての経営戦略の一端ともなる事業ですので、よい展開を期待します。</p> <p>5 閲覧事業や出版事業、講師派遣事業などは、直接来館者とのコミュニケーションが生じるので大事にすべきだと思います。講座や出版のテーマの選定も重要です。戦略的に見直すことも検討していただきたいと思います。</p>
10. 出版・刊行事業について	<p>3 18年度は学校連携、市民協働が具体的な形で見えていないのですが、公募写真展の成果に見るように当該事業でも市民の知恵と力を得て協働できる面があると思います。</p>	
11. 普及啓発事業について	<p>1 これだけの横断的な多義的なテーマを扱っているのですから、都市発展についてのキーポイントの事業内容の講座をもっと総合的に構築できるといいかと思います。</p> <p>3 CA(PDCA)にも記載があるように、区役所や郷土史団体等の主宰講座への講師派遣は随時依頼という特性があり、業務調整だけでなく、人材育成や派遣のシステムを段階的に構築していく必要があると思います。開港150周年等を視野に依頼が増加することを見込む必要があるでしょう。</p> <p>5 講師派遣の機会が増えていることは、職員のプレゼンテーション能力も向上し、記念館としての知名度も上がるので今後も継続してほしいと思います。開港資料館との共同執筆も良い傾向だと評価できます。</p>	
12. 広報宣伝活動事業について	<p>2 努力が感じられます。</p> <p>3 通信販売業務の3.5倍増は評価できます。伸びつつある途中過程だと思いますが、ショップは賑わいの創出やレイアウト等の演出も必要だと思います。</p>	<p>3 運営努力がみられますが、より魅力を発揮できるよう一層の取組を期待しています。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>1 商品量が少ないと思います。もっと豊かにという気もします。</p> <p>2 明るく開放的で利用しやすい事が感じられます。</p> <p>3 市民との協働がB評価になっていますが、広報を届ける先こそ市民なので、ぜひ戦略のなかに市民との協働を工夫して見ていただきたいと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
14. 来館促進事業について	<p>3 記念館の特性から、旅行者等も視野に代理店や観光案内所との連携などに努力されていると思います。</p> <p>4 各学校に対しても、企画展ポスター等を送付することが、来館者増につながると期待できます。</p> <p>5 みなとみらい線「日本大通駅」コンコースでのパネル展示は観光客を対象にしているのか、リピータを対象なのかターゲットは分かりませんが、展示パネルの内容も客層を意識した内容にバラエティさを考慮してもよいかも知れません。いずれにしても誘客効果はありますので継続するよう期待しています。</p>	<p>3 来館促進の本質は優れた展示内容だと思いますが、併せて魅力をアピールする戦略を打って行くことも大切でしょう。目先の集客やイベントではなく、あくまでも貴重な財、優れた記念館としての協働や連携事業に対する戦略を立てることを期待しています。</p> <p>5 新規来館者の発掘は一館だけの問題ではなく、各文化財施設との共通課題ですから、財団組織全体として取り組む方策を検討することが肝要です。その意味では、県外の都市旅行代理店に施設説明などの来館者促進を図った点は評価できます。継続して行くためには、営業的なスタッフの確保も今後の課題でしょう。</p>
16. 休館・閉館について	<p>3 PDCAサイクルにもとづく運営が行われています。</p> <p>5 臨時開館1日で、「展示資料の劣化防止に対する配慮が必要である」というのは、やや神経質になり過ぎているのではないのでしょうか。都市発展記念館の展示物は、一日の臨時開館で壊れるようなものではないと思います。</p>	<p>3 試行的な取り組みもありますが、効果測定と併せて良いベクトルを築くことを期待しています。</p> <p>5 効果測定を行い、今後どのような改善が求められるのかをまず判断することだと思います。利用料金などは提携先が新聞社、地元企業など様々なパートナーがあると思います。</p>
17. 利用料金等について	<p>1 もっと、横浜市ふるさと歴史財団全体で、ダイナミックに行うべきです。</p> <p>3 共通割引券などの設定は、積極的な取り組みとして評価できます。外部機関との連携も図られていることが見て取れました。</p> <p>5 文化財施設4館で費用分担して作成したことは評価できますが、東京の「ぐるっとパス」のような取り組みも今後検討を願います。財団運営施設以外の他館との共同も、幅を広げる可能性はあると思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
19. 管理業務事業について	1 指定管理者自己評価に準じます。 3 基本的な業務が着実に実施されていると思われます。	3 研究や収集を支えるハード面の基盤的な業務ですが、組織体制を工夫し日常的な基本業務が着実に遂行されていると評価します。 5 ルーチン業務と新規企画事業の計画とは頭の切り替えが必要だと思いますが、自己研鑽・自己研修の時間も確保できるよう、組織的にも時間を作る努力が必要だと思います。
20. 施設保守管理事業について	1 指定管理者自己評価に準じます。 3 安全の確保、突発的な故障への迅速な対応など基盤整備を重視・確立していると思われます。今後も怠りない努力を期待します。	
21. 組織構成と運営について	1 指定管理者自己評価に準じます。 3 高度の専門能力を有する専門職員と事務系職員の適正配置がなされています。電子化、研修、職員配置の見直し、ローテーション工夫などの組織体制の確立に伴う工夫や努力を評価します。 5 組織内の変更と共に、市民団体やNPO、地元企業との協働事業を計画実施したことは評価できます。限られたスタッフの中では限界があるため、市民の力を積極的に取り入れることは大事だと思います。	

平成18年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価報告

横浜ユーラシア文化館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価	
	1	2	3	4	5		
事業区分・事業名称							
1・2・3事業総合評価	B	A	A	A	A	A	
1. 市民協働事業展開について (1) 市民ニーズの把握 (1) 財団エドゥケーター調整事業 (1) 市民協働の推進	B	A	A	A	A	/	
2. 経費削減・収益向上事業について (1) 収益向上措置 (2) 経費の節減対応措置	B	A	A	A	A		
3. 魅力資源活用事業について (1) 収集資料活用事業 (2) 建物施設の活用事業	A	A	A	A	A		
4・5事業総合評価	A	A	A	A	A		A
4. 常設展示運営事業について (1) 常設展示の運営 (2) 常設展示の更新計画	A	A	A	A	A		/
5. 企画展・特別展示運営事業について (1) 「天空地球ユーラシア -古地図が描く世界の姿-」 (2) 他施設との連携事業 (3) 開港150周年開催事業 (4) 企画展示評価システムの実行	B	B	B	B	B		
6・7事業総合評価	A	A	A	A	A	A	
6. 調査研究事業について (1) 研究成果の公開と活用	A	A	A	A	A	/	
7. 資料収集事業について (1) 資料の収集・整理 (2) 資料保存業務 (3) 資料の公開業務	A	A	A	B	B		
10・11事業総合評価	A	A	A	A	A		A
10. 出版・刊行事業について (1) 出版・刊行事業	A	A	A	A	A	/	
11. 普及啓発事業について (1) 展示資料活用事業 (2) 他施設連携事業	A	A	A	A	A		

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
事業区分・事業名称						
12・13事業総合評価	A	A	A	A	A	A
12. 広報宣伝活動事業について (1) ネット媒体活用事業 (2) 広報集中化活動 (3) アンケート調査事業	A	A	A	A	A	/
13. 利用者サービス事業について (1) ミュージアムショップ販売事業 (3) 飲食サービス事業	B	A	A	A	A	
14事業総合評価	B	A	A	A	A	A
14. 来館促進事業について (1) 来館者促進事業 (3) その他	B	A	A	A	A	/
16・17事業総合評価	A	A	A	A	A	
16. 休館・閉館について (1) 特別開館事業	A	A	A	A	A	/
17. 利用料金等について (1) 企画展示利用料金事業 (4) 複製資料の利用事業	B	B	B	B	B	
18・19・20・21事業総合評価	A	A	A	A	A	A
18. 自己評価・情報公開事業について (1) 自己評価公開推進事業 (2) 情報公開事業 (3) 実績評価事業	A	A	A	A	A	/
19. 管理業務事業について (1) 効果的な管理業務事業 (2) ゴミ・環境対策事業 (3) 危機管理実施事業	A	A	A	A	A	
20. 施設保守管理事業について (1) 施設設備保守管理業務 (2) 施設環境維持管理業務	A	A	B	B	A	
21. 組織構成と運営について (1) 組織体制の確立 (2) 意思決定・伝達体制の確立 (3) 人材育成・能力開発業務 (4) 専門的人材の配置体制 (5) 施設運営職員の配置体制	A	B	A	A	A	

横浜ユーラシア文化館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 今何故、ユーラシアなのでしょう。市民にそのニーズはあるのでしょうか？このテーマで何を市民と協働するのでしょうか。こういった根本的な問題に対する議論を、内外部で行う必要があると思います。</p> <p>3 市民ニーズの把握についてアンケートの分析、対応が行われ、また学校連携事業については検討の段階に入っており、次年度の早期着手及び展開を期待します。PDCAを視野にした体制づくりに取り組んでおり評価できます。</p> <p>5 学校連携の第一歩を踏み出し、HPの改良に積極的に取り組んだことは評価できます。学校への宣伝強化も必要でしょう。質の高いコンテンツの提供に期待します。</p>	<p>3 魅力資源活用事業等に意欲的な事業推進の姿勢が見られます。文化館としての専門性とクオリティの高い運営には、市民の知恵、力と協働していくことが重要であると思われます。学校を含む幅広い市民との連携や協働、また市外から訪れる人々をも視野に入れて、文化館の存在意義を高める運営を期待します。</p> <p>5 基本的な日常の維持管理と集客のためのイベント的発想を切り替えて、積極的な運営(待ちの姿勢ではなく、攻めの姿勢)が大切だと思います。その意味では魅力資源の活用事業は、学校と市民をターゲットに取り組んでいくべきだと思います(自己評価ではB評価でした)。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 収益向上といっても数値目標が横ばいである以上、そのことにコメントしようがありません。入場料収入の数値を見ても小さな店舗一店にも満たない状況で、どの程度向上することを市は求めているのでしょうか。また内部では意志をもって活動を行っているのでしょうか。これも根本的な問題として内外部で見直してみる必要があると思われます。</p> <p>3 事務系職員と学芸系職員での検討など、組織的な取り組みの姿勢が評価できます。</p> <p>5 最初は自作は大変だと思いますが、慣れてくればそれほど苦痛ではないと思います。しかし、内作にかかる時間と外注の場合とで比較検討してみることも必要でしょう。</p>	
3 魅力資源活用事業について	<p>1 当初、デザインや内装費用に計上できたことは幸運なことだったと思います。現在の宝石店のような状況も決して悪くはありません。ならばもっとその特徴を活かして、レプリカやグッズの開発などを行い、収益事業に繋げることもできるような気がします。銀座のルーブルのお店が、現在上手くいっているかどうかはわかりませんが、参考にするとよいと思います。もっと、このリッチなお洒落なインテリアを全面に打ち出せればよいと思います。</p> <p>3 HPや情報誌での紹介、グッズの制作、チラシやポスターでの情報提供など、施設の資料活用に工夫と努力が見られます。PDCAに基づいていることも評価できます。</p> <p>5 旧玄関見学とショップは、無料であることを積極的にアピールする必要があると思います。日本大通駅との連携事業の展開も、今後ますます重要になると思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
4. 常設展示運営事業について	<p>1 当初、デザインや内装費用に計上できたことは幸運なことだったと思います。現在の宝石店のような状況も決して悪くはありません。ならばもっとその特徴を活かして、レプリカやグッズの開発などを行い収益事業に繋げることもできるような気がします。銀座のルーブルのお店が、現在上手くいってるかどうかはわかりませんが、参考にするとよいと思います。もっと、このリッチなお洒落なインテリアを全面に打ち出すといいと思います。</p> <p>3 広報業務が難しい常設展示に、ニュース性を持たせるなど運営に工夫がなされている点は高く評価できます。</p> <p>常設展示は広報業務が難しいところ、ニュース性を持たせた点は評価できます。</p> <p>5 今後も継続し、しかしマンネリ化しないように、「サプライズ」が継続できるよう期待します。</p>	<p>2 展示資料の素材自体として、多くの入館者を期待できない分野と考えます。施設を着実に運営して行くことが設置者ならびに管理者の見識でしょう。</p> <p>3 展示にはニュース性を持たせ、また企画とのタイミングを工夫するなど努力が見られますが、より効果的な広報宣伝に努めることを組織体として意識していくことが望まれます。現行の努力が今後の進化に繋がることを期待してA評価としました。</p> <p>5 常設展示の持つ意味や価値をもう少し前面に出して、話題づくりを積極的に仕掛けるよう期待しています。</p>
5. 企画展・特別展示運営事業について	<p>1 アジアとかアフリカとかユーロとかよりも、ユーラシアの方が、はるかに豊かな響きをもった言葉だと思います。そのあたりをもっと全面的に打ち出したプロジェクトを組まれるといいと思います。</p> <p>3 企画展示につきましては、図録の刊行や展示解説も実施されており、自己評価シートにも来館者の満足度は高いとありますが、効果的な広報宣伝が今一步という点に改善が必要だと思われます。</p> <p>4 開港150周年に向け、ユーラシア文化館ならではの企画を期待します。</p> <p>5 各文化財施設との連携を図ることは、「地の利」と「組織の利」を活かせると思います。企画展示評価システムにつきましては、判断材料がなく評価できませんでした。</p>	
6. 調査研究事業について	<p>3 研究成果としての出版やシンポジウムの開催に、意欲的な事業展開が見られます。事業展開中であっても、可能な場合は随時アンケート調査を行い、その内容を反映して改善するという姿勢は、まさにPDCAに基づいていると評価できます。</p> <p>5 オロンスム出土のモンゴル語文書データベース試験公開のデータベースをHP上で確認しましたが、画像のほかに、「意味」が必要であると思いました。そうでなければ、一般の人は全く分からないと思います。</p>	<p>2 公開シンポジウムの開催については、大きな社会的貢献と評価できます。</p> <p>3 当該施設の中核をなす業務の一つとして、収集整理、保存、公開業務に体系的に取り組んでいることが見て取れます。個々の業務を充実発展、維持して行くためにも、引き続きPDCAに基づいた運営管理を望みます。</p>
7. 資料収集事業について	<p>3 文化財の最も大切な業務の一つとして、環境調査やデータベース化など、最新科学の最新成果や手法も用いる領域であり、常にPDCAの視点を怠らないことを期待しています。</p> <p>5 台帳整理や保存環境の維持などは、裏方の大変な仕事であると思います。自己評価および相互評価もA評価とのことでしたが、部分的にはCの評価もありました。このC評価に対する来年度の実施計画を検討していただきたいと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
10. 出版・刊行事業について	<p>2 学問的な貢献として評価します。</p> <p>3 予定通りに事業が遂行され、また魅力的な出版物の刊行を目指す姿勢は評価できます。</p> <p>5 予定通りに刊行する努力は相当なエネルギーだと思います。今後も早め早めに着手すること、質的向上を図ることを期待します。古代オリエント博物館や馬の博物館との共同制作は評価できます。</p>	<p>3 出版刊行物も質とその活用が問われると思います。クオリティ高くまた魅力に富んだ出版物の刊行に、引き続き取り組むことを期待しています。</p> <p>5 裏方の努力はあまり高く評価されず、出版などの目に見える形で評価されがちです。しかし、出版は基礎となる調査研究があって初めてなし得る事業です。今後も継続してご尽力ください。</p>
11. 普及啓発事業について	<p>3 関内地区の博物館同士の連携協力により、来館者に好評という成果を出していることは評価できます。今後も連携や新たな発想を持って様々な可能性を探り、クオリティの高い事業展開を期待しています。</p> <p>5 神奈川県立歴史博物館との連携など、共同企画事業につきましては今後さらに活発に仕掛けを作ってほしいと思います。一般来館者にとってみれば、県立であろうと、市立であろうと全く関係がないことですので、行政の枠にとられない柔軟な発想が大切です。</p>	
12. 広報宣伝活動事業について	<p>3 事務系、学芸系と組織全体での取り組みは的確だと思います。広報は発信した情報がどのくらい浸透しているかが重要だと思われるので、CD(PDCA)に注力することも必要でしょう。</p> <p>5 どうしても学校に対する連携や広報業務が弱いように思います。その他のことはA評価になっているのですから、一度学校対応の強化を図ってみたいかがでしょうか？</p>	<p>3 内側では組織全体での取り組みがなされ、外部とは様々な機関との連携が図られているところから、今後の伸びが期待されます。コメントに意識されているように、前例にとられない広報を積極的に取り組むことも期待しています。</p> <p>5 ショップの販売売り上げ差益は80万くらいですが、来年度は更なる売り上げを目指すよう頑張ってください。前年度比33%を達成したのであれば、次年度も期待しております。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>1 商品量が少ないと思います。もっと豊かという気もします。</p> <p>3 利用者サービスが充実することにより、文化館への関心も高まるという観点からも、普及啓発や魅力をもった商品等の充実を目指すことが望まれます。</p> <p>5 今後は、さらに質の高い複製品を期待します。</p>	
14. 来館促進事業について	<p>1 横浜でもトップクラスの立地に属するのですから、もっと存在感を示してください。コレクションがしっかりしているのですから、広報の露出度を増やせば、現状は打破できると思います。予算のバランスシートを見直し、広報に(情宣)もっと経費を投下すべきだと思います。</p> <p>3 中華街との連携や他機関との関連、参加等の広報展開は、促進事業として工夫が見られ評価できます。実習生受け入れも継続的にプランニングして行くことが今後期待されます。</p> <p>5 学芸員実習は次世代の博物館育成事業と考え、時間が割かれてしまいがちですが、真剣な教育を期待します。</p>	<p>3 促進をより高めるには、市民との協働がさらに重要になってくるでしょう。市民は文化館を訪れるだけの単なる鑑賞者から、町の文化創造や支え手としての意識をより持つようになっていきます。来館者促進についても、市民との協働の模索がキーになることと実感しております。</p> <p>5 横浜中華街と連携した広報は高く評価できます。今後も継続し、特に手薄になりがちな市民協働の広報を心がけて実施することを期待します。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
16. 休館・閉館について	<p>3 臨時閉館・休館の周知徹底をはかることは、レセプションistとして利用者に対するサービスの第一歩であるとの意識が必要です。</p> <p>5 ゴールデンウィーク期間に開館することの周知徹底が必要でしょう。</p>	<p>3 8日間連続開館等の試みは、数字の上では顕著な成果が見られなかったようですが、積極的に試行に取り組む姿勢が評価できます。一回ごとの集客だけにとらわれず、ある程度のスパンでベクトルを上げていくことも大切だと思います。</p> <p>5 各文化財施設の事情もあると思いますので、広報・料金体系など、財団組織全体で見直してみることも必要でしょう。</p>
17. 利用料金等について	<p>3 当該事業についても当然、組織的に取り組むことが必要と思われる。効率的な経費の執行にも、体系的な戦略が必要と思われる。</p> <p>5 投資額に対して回収することを始めからできないのであれば、料金体系を戦略的に見直すことも必要であると思われる。</p>	
18. 自己評価・情報公開事業について	<p>3 PDCAサイクルをしっかりと認識した取り組みが実施されています。</p> <p>5 各文化財施設の事情もあると思いますので、広報・料金体系など、財団組織全体で見直してみることも必要でしょう。</p>	<p>2 組織・体制につきましては、他施設と同様な問題点が感じられます。</p> <p>3 自己評価公開、情報公開、実績評価について迅速であること、かつ透明性を保ちながら事業推進をする必要があると思います。</p> <p>5 日常の維持管理は計画どおり実施されているようです。今後は突発的な地震対策や救命措置など、リスクマネジメントを検討していく段階に入ったのではないのでしょうか？また組織改変後の業務効率の評価も、常日頃からのチェックが必要でしょう。</p>
19. 管理業務事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 安全と突発的な事態への迅速な対応を心がけているとが確認されます。</p> <p>5 予期せぬ事態に対応できる体制を確立することは、緊要の課題であると思しますので至急対応されるよう望みます。防災訓練・救命措置などは、今後の実施項目に含めるとのことですが、各文化財施設と協働実施して同じ基本認識を持つことが大事だと思います。</p>	
20. 施設保守管理事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 事業目標達成がB評価となっています。保守管理は展示物や収蔵品の管理に響く重要な業務ですので、事業目標をきちんとこなすよう努力を期待します。</p> <p>5 突発的な故障に対して対応することも、上記のようにリスクマネジメントの一環ですが、人員配置体制がきちんとしていなければ事故の対応も難しくなります。その意味では、職員の健康管理まで含めて考えるべきだと思います。</p>	

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
21. 組織構成と運営について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 迅速な意思決定への見直しや、電子化、研修、配置、ローテーションの工夫など、組織体としての工夫や努力が評価できます。さらに自立と連携のバランスを現場で組み立てて運営力を高めることを期待します。</p> <p>5 人員配置体制を見直し、組織変更するなどの努力は認められます。次なる課題は、「公益法人改革制度」に基づく本来あるべき自立した財団経営の姿を追求するべきでしょう。しかし、これは内部だけの問題ではないため、上位の組織との協議が必要であると思います。</p>	

平成18年度横浜市文化財施設指定管理者外部評価報告

横浜市三殿台考古館評価結果一覧

事業総合評価	評価委員					委員総合評価
	1	2	3	4	5	
1・2・3事業総合評価	A	A	A	A	A	A
1. 市民協働事業展開について (1)市民ニーズの把握 (2)サービス向上の展開 (1)連携事業の展開	A	A	B	A	A	/
2. 経費削減・収益向上事業について (1)経費節減施策の展開 (2)収益事業の展開	A	A	A	A	A	
3. 魅力資源活用事業について (1)資源活用の取り組み	A	A	A	A	A	
4事業総合評価	C	B	C	C	C	C
4. 常設展示運営事業について (1)展示更新計画事業	C	B	C	C	C	/
7事業総合評価	A	B	B	A	C	B
7. 資料収集事業について (1)資料収集事業 (2)展示事業	A	B	B	A	C	/
13事業総合評価	A	A	A	A	A	A
13. 利用者サービス事業について (1)サービス事業の展開	A	A	A	A	A	/
16事業総合評価	A	A	A	A	A	A
16. 休館・閉館について (1)開館時間への取り組み	A	A	A	A	A	/
19・20事業総合評価	A	A	A	A	A	A
19. 管理業務事業について (2)環境対策事業	A	A	A	A	A	/
20. 施設保守管理事業について (1)保守管理業務 (2)環境維持管理業務	A	A	A	A	A	

横浜市三殿台考古館評価意見

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
1. 市民協働事業展開について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 学校教育や施設利用講座等の取り組みが実施されています。</p> <p>5 今回はじめて(39年を経て)体験学習事業を実施し、朝日新聞で取り上げられたのは評価できると思います。しかし、職員数の限界を考慮すると広報宣伝にも限界があるように思います。この改善をどう図っていきかがポイントでしょうか。</p>	<p>3 少ない人員と予算の中で、他の文化財施設との事業連携等が図られており、入館者増にも反映されていることを評価します。この様な制約の基での新たな収益事業には、さらなる連携や工夫が必要でしょう。場合によっては、組織体制の見直しを図るなどの改善も視野に入れたいと思います。</p> <p>5 改善の一步を歩み出したという感じですが、改善点が見られます。しかし、高く評価するか、低く評価するかは、次年度の活動を見て判断したいと思いません。</p>
2. 経費削減・収益向上事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 講座、学習会の実施など収益事業に努めており、経費節減、収益事業について取り組んでいることが見て取れます。</p> <p>5 自販機の設置により、若干ですが収入があったことは評価できますが、逆にゴミの問題や環境美化には影響はなかったのでしょうか？</p>	
3 魅力資源活用事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 遺跡活用事業等の取り組みにつきましては、施設の特質からも評価されます。次年度に予定されております地元住民との協働を期待します。</p> <p>5 前年度にくらべて、入館者が828名増加という点では快挙だと思います。しかし、全体的に見て広報宣伝に力を注いでいないため、資源活用の面で効果が現れていない面も見受けられます。</p>	
4. 常設展示運営事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 展示更新についての事業計画はありますが、本格的な検討取り組みが実現していません。開館40周年という節目を、どうプロデュースしていくのが三殿台考古館にとって極めて重要でしょう。</p> <p>5 この点につきましては、指定管理者だけで検討すべき問題ではなく、設置者責任としても横浜市を含めて検討すべき問題であると思います。</p>	<p>3 常設展、企画展とも三殿台考古館の持つ価値や魅力をもっとプロデュースする視点が必要でしょう。</p> <p>5 展示更新計画のみならず、事業予算化の手立ても検討していく必要があると思います。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
7. 資料収集事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 資料収集や研究事業について、専門性を高めると同時に、市民との協働により事業の幅を広げる必要があるでしょう。さらに屋外展示施設や資料活用についても、更新や見やすい工夫など、たゆまぬ努力が必要でしょう。貝塚の剥ぎ取り資料の展示等では、見せ方に工夫もあり評価できます。</p> <p>5 遺跡発掘調査等の写真資料の再整理を開始した点は評価できますが、ウェブサイトでの公開や活用を考えれば、今後はデジタル化を視野に入れて検討すべきだと思います。マンパワーの問題もありますが、財団組織全体で検討してはいかがでしょうか?</p>	<p>3 収蔵庫の資料整理等を着実に実施され、全体更新を見据えながらの部分的活用等のきめ細かい取り組みが実現されている。</p> <p>5 努力のあとが感じられますが、「改善の視点・課題」の欄で、「展示全体の更新を見据えながら、活用できる資料を選び…」と記述されている部分につきましては、展示更新計画事業がC評価であり、自発的姿勢が感じられません。無責任のように思いました。更新計画も立たないまま、「展示全体の更新を見据える」とはいかがなものかと言わざるを得ません。</p>
13. 利用者サービス事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 説明会、散歩地図作成等の計画取り組みなどは評価できます。また幅広い対象者に、展示・遺跡解説を随時実施するなど努力が見られます。</p> <p>5 ここでも広報業務が不足しているようです。団体見学者の要望に応じて遺跡解説を実施することは、来館者サービスの点から非常に大事だと思います。継続して実施することを希望します。</p>	<p>3 少くない人員と予算という制約がある中で、展示資料や遺跡の解説を要望に応じ実施していることは、サービス事業としての姿勢を評価できます。</p> <p>5 散歩地図のアイデアのように、次なるサービスを考えることが重要でしょう。</p>
16. 休館・閉館について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 開館時間延長の取り組みは利用者の幅を広げ、市民のニーズを把握していると思われる。</p> <p>5 開館時間を長く設定したことにより、施設利用者が増えたことは評価できます。</p>	<p>3 開館時間について夏季は延長するなど、サービス向上の取組は評価できます。</p> <p>5 開館時間を延長したことは、新聞記事などに取り上げられたのでしょうか? またはプレスに投げ込み広報宣伝したのでしょうか? 開館時間の延長によって来館者が増加したことを、次年度では少しでもアピールして広報すべきだと思います。次年度の課題として取り上げていただきたいと思います。</p>

事業区分	各事業評価意見(1～5は各評価委員)	事業総合評価意見(1～5は各評価委員)
19. 管理業務事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 環境対策については情報公開の事業計画があり、横浜G30プランの取組が着実に実施されている点は評価できます。総体ではPDCAに沿って事業が適正になされていると思われま。</p>	<p>3 PDCAにのっとり事業が適正に実施されています。今後の活性には、三殿台考古館の存在をより周知し、配置人員や予算に制約の多い中にも、魅力ある運営を望みたい。</p> <p>5 年間計画通りに適正に実施できることは素晴らしいことですが、次年度以降も継続してできるようご尽力ください。</p>
20. 施設保守管理事業について	<p>1 指定管理者自己評価に準じます。</p> <p>3 適切に実施されています。経費節減等に努め、委託と職員との組み合わせで保守管理業務に取り組んでいる点にも努力が見て取れます。</p> <p>5 展示遺構のメンテナンスは委託業務のようですが、これは開館時間中で実施しているのでしょうか？もしそうであるならば、これも一つの公開事業に位置付けて来館者に見学させてはいかがでしょうか？どの様にクリーニングしているのかを、見せることも興味が湧くと思いますが、無理でしょうか？</p>	

6 横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会「総評」

外部評価委員会

外部評価にあたって

横浜市民にとって文化財はかけがえのない大きな財産である。

この意味を、市民サービスの実施主体の立場から見れば、文字通り、質の高い博物館運営を追及することが求められているのであり、指定管理者が責任を持つ博物館業務のひとつひとつの業務に対しその本質を理解し、また歴史を積み上げていく地道な調査研究、収集、展示、保存、教育普及、学習支援活動などが求められているのである。

外部評価委員会は、P D C Aサイクルはそのために活用する循環機能であると認識し、外部評価も次への「創造」につながるものと確信している。

指定管理期間は原則として5年間であり、初年度の外部評価だけで完了するわけではなく、平成19年度以降も指定管理者は引き続き博物館の運営を継続することが前提となっている。

本来ならば年度ごとの外部評価であるべきはずであるが、外部評価委員会では《当該年度の外部評価の結果は、博物館の運営改善の観点から翌年度以降にも反映されるべきである》との認識の上に立って、下記に述べる評価結果および総評に加え、次年度以降についての「諸課題」についても付帯意見として述べた。

平成18年度：指定管理者外部評価 結果

【 外部評価方法 】

委員会を5回開催し、その内2回の現地視察を行ない、また指定管理者からヒヤリングを実施した。評価基準は横浜市文化財課と数回にわたる協議の結果、評価すべき複数の評価項目を設定した。これらの評価項目に基づいて、(1)指定管理者が自己評価を行なった結果を外部評価委員会に提出し、(2)これら当該自己評価書をもとに、各外部評価委員がそれぞれの博物館に対して評価表を作成し、(3)それらをもとに外部評価委員会の議論の末、総合的に判断・評価を行った。

なお、外部評価委員からは、今後、外部評価自体の在り方についても検討していく必要があるとの指摘があった。

【 評価結果 】

横浜市歴史博物館ほか横浜市文化財施設 4 館は、概ね適切な管理運営および経営を行っており、指定管理者外部評価委員会における総合評価は総じて高く、その結果は「 A 」評価であった。

総 評

P D C A サイクルの視点から全館とも各事業に対して積極的な取り組みの姿勢が見られ、また努力のあとを見ることができる。

指定管理者制度の導入によって初めての外部評価の実施であったが、各外部評価委員とも諸事業の実施内容について概ね高く評価しており、たとえば、博物館活動の根本である資・史料の整理、調査研究に基づいた展示、教育普及活動、出版、講座の実施運営、HPの積極的活用と情報公開等について前向きに運営していることから、高く評価した。

一部、事務系と学芸系で2分化した業務対応では期待した成果を得ることは難しい面もある、と外部評価委員からは指摘されたが、これまでになく内部組織の中でコミュニケーションをとり迅速な意志決定を行なっていることを考えれば、運営面の質的向上が今後も図られるのではないかと期待値も大きい。

また市民ガイドとの協働、地元企業との連携および学校連携、学校の博物館利用研究会の立ち上げ、協議会の発足など、これまでにない新しい取り組みや事業活動を積極的に打ち出しており、その結果、来館者数の増大、経費節減、ミュージアムショップの売り上げ増など、数値として着実な結果を出していると判断した。

個別の博物館については、自己評価の結果、部分的に「 B 」評価や「 C 」評価が見られるが、

- (1) 指定管理者制度の導入後初めての自己管理・自己責任の観点から自己評価を実施したこと（つまり過去と比べる相対基準がないこと）また、
- (2) 外部評価委員会としても初年度であり、連続して判断することの必要性もあることを考慮し、さらに、
- (3) 限られたマンパワーや財政資源の配分など指定管理者の実情の観点からすれば概ね高く評価されてよい。

以下、各館の個別評価について記述する。

〈 横浜市歴史博物館 〉

各種刊行物についての事業計画や着手状況は取組が順調であり、概ね評価できる。しかし、その一方で配布計画事業等はマスコミなどへの周知、民間協力など、より一層の努力が必要である。

事務・専門職の連携など組織体制の確立に努めており、自主研修を強化するなど

積極的な取り組みや質的向上の意欲、姿勢が見て取れる。

また、市民サービスに対して開館時間の延長など鑑賞者ニーズにあわせたきめ細かい工夫は評価できるが、その一方で、資料収集事業は今後一層の努力が必要であり、広報宣伝が不十分であることは否めない。貸し出し事業の利用数が伸びない点も改善を要する。

地域資料の収集はまず情報収集から始まるが、これは継続的な事業であり、市民からの情報提供がしやすい環境・コミュニケーションづくりも重要であろう。その意味では、市民との協働への取り組みがまだ十分ではなく、改善の余地があるが、事業全般的に見れば評価できる。

〈 横浜開港資料館 〉

市民協働事業プロジェクトチームを発足させるなど積極的な取り組みは概ね評価できる。また収益向上だけに特化することなく、資料館を支える人々を増加させるための事業を展開するなど、本質的な運営の姿勢や考え方が明確に示されている。

しかし、人口動態や社会動向から人々の動き方が変化してきており、そうした観点からも市民ニーズを的確に把握し、戦略を練ることが重要である。インターネットによる情報公開の積極的活用や利用者の目線に立った管理運営が望まれる。

経費節減や市民協働、収蔵資料の活用など資料館の重要な事業展開についても、具体的な努力が見ることができるので評価したい。

学校連携では「C」評価、広報宣伝では「B」評価など、自己分析もできているが、この分析結果をもとに、次にどのように改善していくかが問われなければならない。今後は、改善、見直し等に積極的に取り組むことを期待する。資料館の使命として、学校教育とのしっかりした連携は早い段階で実現することが大切である。

〈 横浜都市発展記念館 〉

市民提供の写真展など、市民との協働が相互によい力を出しあって達成できていることは高く評価できる。また、横浜観光コンベンション・ビューローとの提携や記者発表など広報宣伝の成功体験ができている。

また、みなとみらい線「日本大通り」駅のコンコースで実施したパネル展示は、観光客やリピーターを対象に実施されており、広報宣伝力によって来館者増につながっている点は評価できるだろう。誘客効果は十分に想定できるため、今後も継続して広報に力を入れるよう期待したい。

調査研究事業は博物館の要であり、着実に取り組んでいることも評価できる。とりわけ、研究成果を「講座」で公表することにより、研究者と市民の評価批判といった双方向性のある姿勢は評価したい。

しかし、現在の専門職員のみにおいて、調査・研究・展示業務を展開するのは不

可能であり、外部機関・個人等との業務連携が必要であろう。とりわけ、横浜市の中心商業地の研究は、市史資料室との連携、生活用具研究は歴史博物館との密接な連携による業務の実施が必要であり、今後の組織体制の構築を検討すべきである。

〈 横浜ユーラシア文化館 〉

P D C A サイクルを視野に入れた体制づくりに取り組んで実施しているなど、概ね評価できる。

研究成果としての出版やシンポジウムに意欲的な事業展開も見られ、事業展開中であっても、可能な場合は随時アンケートを反映して改善するという姿勢は、まさに P D C A に基づいており評価できる。

しかし、魅力資源活用事業等に意欲的な事業推進の姿勢が見られるものの、企画展示利用料金事業や複製資料の利用業務は改善の余地がある。文化館としての専門性とクオリティの高い運営、企画展・特別展示運営事業については、市民の知恵や市民協働参画力を高めていくことも重要であろう。

学校連携事業は検討の段階に入っているが、次年度の早期着手および事業展開が期待される。学校を含む幅広い市民との連携や協働、また市外から訪れる人々をも視野にいれ、文化館の存在意義を高める運営を期待する。

〈 横浜市三殿台考古館 〉

遺跡活用事業等の取り組みは、施設の特質からも評価することができる。収蔵庫の資料整理等を着実に実施しており、全体更新を見据えながらの部分的活用等のきめ細かい取り組みが実現している。次年度予定の地元住民との協働に期待がかかる。

資料収集や研究事業について、専門性を高めると同時に、市民との協働により事業の幅を広げる必要があるだろう。さらに屋外展示施設や資料活用についても、更新やみやすい工夫などたゆまぬ努力を要する。貝塚の剥ぎ取り資料の展示等では見せ方に工夫もあり、評価できる。

また、前年度にくらべて 828 名増加という点では快挙であり、高く評価できる点である。

しかし、全体的に見て広報宣伝に力を注いでいないため、資源活用の面で効果が現れていない点も見受けられる。展示更新についての事業計画はあるものの、本格的な検討取り組みが実現していない。開館 40 周年という節目をどうプロデュースしていくのが三殿台考古館にとって極めて重要である。

〔付帯意見〕 指定管理者および横浜市についての諸課題

外部評価委員会としては、横浜市文化財施設がより一層市民生活に根ざした活動を展開し、さらなる運営改善へと導くことに期待を寄せ、以下の諸課題について付帯意見としてまとめたものである。また、直接的には横浜市文化財施設の外部評価には関係しないが、今後の文化財施設の管理運営の質的向上の観点から、今回の外部評価委員会の協議の過程で指摘された点について述べておきたい。

翌年度以降の改善点として、自らが具体的なハードルを設定し、「市民に開かれた博物館」として事業展開することに期待するものである。

1. 新しい指定管理者制度が導入され、1年間の実績が評価されたところであるが、今日の博物館経営の環境はこれまでの旧態依然とした考え方ではもはや成り立たず、常に新しい風を受け入れ、時代の流れを読み、来館者のニーズを探り、生涯学習社会での博物館の役割と存在意義を自ら証明していくことが求められている。次世代への継承のため、文化財の適切な保存、博物館資料の管理は改めて言うまでもなく、ダイナミックな運営が途絶えることなく要求されている。その意味では、1館が単独に経営や運営の在り方を定めるのではなく、文化財施設の5館全体で経営戦略や場合によっては他者とのパートナーシップの確立を視野に入れて提携戦略を模索していくことも必要である。指定管理者は、他のNPO法人等から新しい文化施設の経営・運営ノウハウを学ぶことも必要であろう。守備範囲は守りつつも、新しい考え方を果敢にも取り入れることによって、文化財施設に新しいダイナミック性が付加され、また新しい価値を創造することができるのではないかと期待するものである。暗黙知(ノウハウ)の共有や外部組織から学ぶことも今後の大きな課題であろう。
2. 多くの外部評価委員が指摘するように、全体的に見て広報・宣伝力が弱い点は否めない。特別展のテーマ設定や教育普及プログラムのテーマの選定は博物館にとって重要な役割を果たすが、それ以上に新聞紙上等のパブリシティ・広報宣伝力の強化はリピータ確保の点からも重要であり、博物館活動を周知徹底することによって、新しい来館者や観光客、生徒児童の顧客層を開拓し、また同時にリピータを確保するものである。広報活動は、博物館業務全体の活動を一層活性化するものであり、広報活動自体も市民に対するサービスの一環として捉え、組織全体として広報宣伝の在り方・実施方法等について再検討することを強く望むものである。
3. 指定管理者の自己評価書においても学校連携や企業連携は重要であると認識しており、部分的には連携活動を推進しているが、まだ満足いくものではなく、不十

分であることは否めない。館独自のアイデンティティは確保しつつも、新しい連携企業・大学・ボランティア等のパートナーを開拓し、具体的な市民参画企業参画の推進方法や連携プログラムについて戦略的な見取り図を描いていただきたい。

4. P D C AのPは個別の事業展開のみならず、大局的なプランニング、たとえば横浜開港150周年を契機に何をアピールしていくかなど、前向きにプランニングの検討案を示していただきたい。市民が横浜の歴史を再認識できるように提供していくことが重要であり、文化財施設全体で議論すべきである。
5. 横浜市都市発展記念館やユーラシア文化館のように、歴史的建造物自体が博物館施設として利用されている点を考慮すれば、歴史的建造物の利用制限と活用のバランスは横浜市全体としての調整課題である。このことは指定管理者だけで解決できる問題ではなく、関係機関・関係所管部局との協議または調整が必要であり、設置者責任者としての横浜市教育委員会のイニシアチブも期待されるものである。
6. 常設展示の更新や収蔵施設・収蔵庫の大規模な改善等については、指定管理者側と設置責任者との間で協議が待たれる。導入された指定管理者制度は指定管理期間内(5年間)だけを考えればよいのではなく、次の指定管理期間についても横浜市教育委員会は文化財施設の政策立案の責任を負っている。運営責任者としての館長ならびに経営責任者としての指定管理者(横浜市ふるさと歴史財団)は、限られた資源を最大限活用し運営していくべきであることは言うまでもないが、設置者である横浜市・横浜市教育委員会に対して「あるべき姿」を積極的に提言していくべきである
7. これまで収集されてきた横浜市文化財施設の収蔵品は社会から負託されていることを再認識し、横浜市が集積してきた歴史的資料群に対して保存管理の責任を全うし、また大所高所の観点から市民に対してサービスの提供を行なうべきである。資料収蔵場所の不足など博物館資料の保存に関わる際には、予算的な配慮が必要であり、豊かな歴史・文化は合理的経営だけでは築けないこと考えると、管理者の自助努力だけに終始せず、市民によるファンドや横浜市との協議など深化のためにも思い切った発想をもって道を切り開いていくことも大切であろう。そのための博物館政策全般にわたって恒常的に協議できる場を設置することなどが考えられる。

横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会要綱

制定 平成19年1月19日

(趣旨)

第1条 この要綱は、横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館及び横浜市三殿台考古館（以下「文化財施設」という。）の指定管理者が指定管理期間中に行った管理運営の状況について、第三者による公平かつ適正な評価を実施するため設置する、横浜市文化財施設指定管理者外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(評価委員会の業務)

第2条 評価委員会は、文化財施設の指定管理者の評価に関する次の事項を所掌する。

- (1) 評価基準及び評価方法に関すること
- (2) 管理運営状況の評価に関すること
- (3) 評価結果の教育長への報告に関すること
- (4) 管理運営及び評価に関する助言等
- (5) その他、委員会において調査検討が必要とされる事項

(組織)

第3条 評価委員会は、文化財施設の運営管理又は文化財保護事業に関する有識者、利用者の代表並びに財務専門家等の中から教育長が委嘱した者をもって組織する。ただし、委員の辞職などにより審査に支障が生じたときは、教育長は新たな委員を委嘱することができるものとする。

- 2 評価委員会に委員長を1人置く。
- 3 委員長は、委員の互選により定める。
- 4 委員長は、評価委員会の会務を総括する。
- 5 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、文化財施設の指定管理者の評価等について教育長から委嘱された

日から、その委嘱された日が属する文化財施設すべての指定管理期間が終了し、当該期間の最終年度の評価を終了した日までとする。

2 委員の再任をさまたげない。

(会議)

第5条 評価委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 評価委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。

4 評価委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決するものとし、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(指定管理者の出席)

第6条 委員長は、評価委員会において必要があると認めたときは、文化財施設の指定管理者の出席を求め、管理運営状況に関する説明又は意見を聴くことができる。

(関係人の出席)

第7条 委員長は、評価委員会において必要があると認めたときは、専門的事項に関し知識又は経験のある者その他関係人の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(資料の提出等の要求)

第8条 評価委員会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、教育長に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

(委員の責務)

第9条 委員は、公正、公平に評価を行なわなければならない。

2 委員は、文化財施設の管理運営に直接参加してはならない。

3 委員は、評価の過程において知り得た個人情報等、保護の対象となる情報を公表してはならない。また、その職を退いた後も同様とする。ただし、横浜市及び評価委員会が公表した情報については、この限りではない。

(審査結果の公表等)

第10条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例(平成12年2月横浜市条例第1号)第31条の規定により会議は公開とする。ただし、委員長の認めた場合は会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

2 評価委員会における評価の結果は、教育長が報告を受けた後、公表する。ただし、評価委員会が必要と認めた場合は、時期、事項を決定して公表することができる。

- 3 評価委員会は、評価過程にかかる公正性、透明性を確保するため、委員会の議事録を整備するものとする。

(事務局)

第11条 評価委員会の事務局は、教育委員会事務局文化財課が行う。

- 2 事務局員その他評価委員会の場に出席した者は、評価の過程を通じて知り得た個人情報等、保護の対象となる情報を公表してはならない。ただし、横浜市及び評価委員会が公表した情報については、この限りではない。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成19年1月19日から施行する。

(会議召集の特例)

- 2 この要綱施行後の最初の委員会の招集は教育長が行うものとする。